

佐濃自治会だより

2019年10月25日(金)
連合区 佐濃自治会発行
【第73号】



移住ツアーお試し住宅見学

10月6日(日)京都府主催の移住ツアーが実施され、佐野甲区にある“お試し住宅”の見学が行われました。(写真：お試し住宅玄関付近)

このツアーには、本自治会移住促進部も参加し、見学者に佐濃地区の概要説明とともに、佐濃への移住をアピールしました。

□ 見学者40～50歳代

見学者は大阪府からの人が多く、大半が40～50

歳代の人達です。また、近い将来田舎暮らしをしたいと思っていることが懇談の中からうかがえました。しかし、最近はいきなり空き家を購入して住むということはほとんどありません。

まず、賃貸で一定の期間住んでみて、地域が気に入れば物件(土地・建物)を購入するという流れになっています。

移住希望者は、空き家物件の価格よりも、自分達が将来移住する地域(集落等)の人間関係や生活環境の方に関心が高いです。

□ 関心は地域の生活環境

そのため、見学者からは、①区費(自治会費)のこと②空き家のある集落の夫役・日役のこと③隣組や近所付き合いのこと④下水道の設置状況⑤買い物、子育て環境のことなどに対する質問が多かったです。

幸い同席してもらった佐野甲の瀬尾さんから、当該集落は国道に接し交通の便がよいこと、夫役・日役も年間

数回程度であること、下水道への設置がしやすい状況にあること、教育支援環境がよいことなどの説明があり、見学者は納得されたようでした。

□ 積極的なのは女性

田舎への移住に積極的なのは、男性よりも女性の方です。今回の移住ツアーに参加したある女性は、古民家と畑を活用して、食材や加工品の直売所をやりたいという構想を語っていました。

この女性には午後から竹藤と長野にある空き家を見学してもらいました。移住には女性の目線で取り組むことが大切です。



↑ お試し住宅の内部



↑ 次の見学先に向かうツアー参加者

新たな地域コミュニティの必要性を考える



先進地事例研修会

□ 新コミュニティに移行した豊岡市

10月23日（水）の夜久美浜市民局において、新たな地域コミュニティについて、京丹後市主催の先進地事例研修会が実施されました。

講師には、弘道コミュニティ協議会長の片山正之氏に来ていただき、当該協議会の設立から現在の活動のようすを話していただきました。

豊岡市は、平成29年4月から市内にある29の地区公民館を「コミュニティセンター」に変え、新しい地域コミュニティ組織による活動を行っています。

□ 新組織で地域に活気が

その中でも、旧出石町にある弘道コミュニティ協議会は、平成27年11月に現在の組織を設立。豊岡市のモデル地区として弘道地区の未来像を掲げ、①環境づくり部②まちづくり部③安心づくり部④人づくり部の4部会に地域住民が結集して、出石城まつりなど地域が元気になる活動を行っています。

□ 地区公民館、区長会組織の整理

印象的だったのは、新コミュニティ組織を立ち上げの中で、既存の組織を整理したことです。活動を上げていく上で地区公民館は制度上制約が多くでてくるので廃止。区長は毎年交代するため、当該組織とは少し距離をおいた位置づけにしたことです。

今回の講演を聞いて感じたことは、豊岡市は平成29年4月から全市で地区公民館を廃止して地域コミュニティに移行するなど、京丹後市に比べて方針が明確です。

本市も今年から地域コミュニティ組織への移行準備を進めています。しかし、町内では7地域がまだ新組織の扉の前に立っている状態です。佐濃では平成28年に自力で新組織に移行、地域コミュニティとして運営を行っています。今後は、地区公民館の在り方や方向性について議論していく必要があります。



今年最後

“おしゃべりサロンカンガルー”のご案内

日時 11月 19日（火） 午前10時から12時頃まで

場所 機業センター

準備の関係で参加される方は予約が必要です。

11月15日（金）午後5時までに電話又はファックスで申込をしてください。

電話/fax 84-0820

